

江戸大の奥に隠れ家のよう

に体育館がある。学生はほとんど行く事がないだろう。そこでバスケットボール部は練習している。

バスケットの選手は背が大きいイメージだから……キャプテンはどのくらい大きいのだろうと考えながらキャプテンを待っていた。すると、練習中に人一倍声を出し、チームをまとめていた小柄な選手が走ってやってきた。それがキャプテンこと、田中選手であった。

——声を出して楽しそうにバスケットしていますね。

そうですね。チーム全体仲が良くて、みんな楽しんでバスケットしています。でも、リーグ戦があるという目の先の目標ができたので、練習自体がだいぶ引き締まってきました。もともとリーグ戦が近くなれば、試合に向けてモチベーションを上げていければいいかなって思っています。

のちに出てくる王選手を除き、去年のチームより全体的に身長が低い。そこを埋められるように一生懸命

練習をしているという。

——キャプテンから見た今年のチームの特徴を教えてください。

今年のチームはドライブ（ボールを持っていく状態）でシュートまでいく攻撃のことが多いです。去年はシューター（シュートが得意な人）が何人かいたので……今年はシューターがあまりいないのでゴール下で点をとることを意識しています。

今年のチームを一言で例えると「挑戦だ。2部リーグでプレーできることを純粋に楽しみにしているようだ。リーグ戦では田中選手のさわやかな笑顔がたくさん見られるはずだ。

今年の出る王選手を除き、去年のチームより全体的に身長が低い。そこを埋められるように一生懸命

バスケットのスター選手は凸凹コンビ!?

2部リーグに上がり、ますます期待されている男子バスケットボール部。その男子バスケットボール部には、注目の凸凹コンビがいる。凸は、中国からの留学生で、王選手。200cmという長身を生かしたプレーが魅力的である。凹は、バスケット選手では小柄な田中選手。175cmということ逆を武器にし、俊敏なプレーでチームを引っ張っているキャプテンである。日々の練習もリーグ戦に向けて、チーム全体で気合いが入っている。

大学までのスクールバスに乗る際に頭をかかめる、自分の部屋の天井に手が届く……これが当たり前前の生活をしている江戸大生がいる。男子バスケット部の王選手である。彼の身長は200センチ。その身長でコートを走り回りバスケットをしているのだ。

——改めて近くで見ると、身長大きいんですね。でかいです。親もかたんだ（笑）バスケットを始めたのも、この身長を活かすと勧められたからなんです。

なるほど。中国でもバスケットをしたということですが、日本のバスケットと中国のバスケットでは違うところ

はあるんですか？

はい。日本のバスケットは速いし、シュートがめっちゃ入ります。逆に、中国のバスケットはみんなゆっくりやります。身長がデカイので中国は、あまり走りません。

——中国のバスケットはあまり走らないということは、日本の速さについていくのは大変じゃなかったですか？

高校の時は大変でした。めっちゃ走らされました。本当に辛かった。日本のバスケットに慣れていなかったの……日本人は速いので足がついていかなかった。

小柄な選手が多い日本では考えられないことである。国が変われば、文化や言語、習慣だけでなく、スポーツの仕方まで変わるのだ。

——今は日本の速さについていてますよね？もちろんです！ちゃんとついていてます（笑）

身長の高さと、日本で学んだ速さを生かしたプレーでシュートを量産し、会場を沸かしてくれるだろう。



左・田中祥貴（たなかよしき） 175cm・70kg。社会学部4年 東京農業大学第三高校出身。
右・王世博（わんしぼ） 200cm・95kg。社会学部2年 柏日体高校出身。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課